

世界の腕時計

WORLD WRIST WATCH

WORLD MOOK

No. 151

ワールド・ムック1267
令和4年4月15日発行
(通巻1267号)

メカ、デザイン、歴史、どれをとっても
腕時計ほどおもしろいものはない!

WWW
WORLD WRIST WATCH

創業から四半世紀を迎えた。パルミジャーニラフレ
築き上げたものを礎に
新たな発展を目指す



時計も未来を考えるー

自然を思い、健全な社会を生み出すために力を尽くす人々

— IWC、ブライトリング、オリス、I.D.GENEVE、カシオ、パナテール

2021-2022 New Watches

— A.ランゲ&ゾーネ、ヴァシユロンコンスタンタン、ロジエデュバイ、リシャールミル、
ルイモネ、チューダー、ブライトリング、オリスほか

ステンレス・スチールとチタニウムの再生で業界を先駆ける



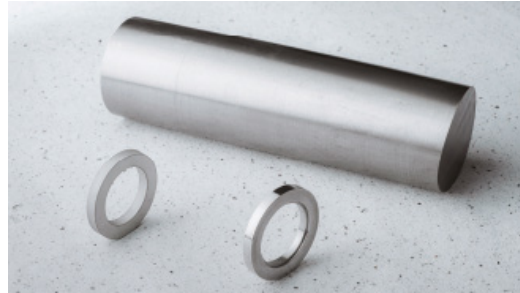
パナテール社を含め、スイス・ジュラ山脈地方のセーニュレジェ周辺のおよそ40社から時計や医療器具製造の過程で破棄された316Lステンレス・スチールのグレード4441がリサイクル・スチールの原材料として使われる。



リサイクル・スチールの製造が実験的に行われた、フランス南部のピレネー＝オリアンタル県にあるモン・ルイに設けられた太陽熱を使った炉。二酸化炭素排出を通常の炉を使った場合よりも大幅に抑えられ、スイス国内での本格的な運用が予定される。



奥はラ・ショー・ド・フォンの国際時計博物館に展示される予定となっている、初めて太陽光発電の炉で鑄造されたリサイクル・スチールのインゴット。手前の左は炉に入れる前のスチールのチップ、右は完成したリサイクル・スチール。



2021年12月にパナテールは通常の炉を使ってグレード5のチタニウムの再生に成功したことを発表した。今年から供給を可能にする予定という。奥は完成した再生チタニウム。手前の左はそれを削り出した状態、同右はポリッシュ仕上げを施したもの。

初の循環型スイス製ウォッチとして登場した「IDジュネーブ」はケース素材としてパナテール社が製造するリサイクル・ステンレス・スチールを採用する。同社はジュラ地方のケース・メーカーを買収し、2012年に時計外装メーカーが多いセーニュレジェで創業。時計ケースを製造する傍らおよそ5年前から時計と医療機器産業に提供する再生金属の開発を行ってきた。

スイスは年間約12万トンというヨーロッパでも最大規模のステンレス・スチールの消費国であり、時計業界では年間に約9000tのステンレス・スチールを消費するという。しかしそのうちおよそ1500tは時計部品の製造過程で廃棄されるが、破棄された後にどのように処理されているかは明らかではない。そこでパナテール社は「循環経済スイス」の活動の一環として、セーニュレジェ周辺の時計部品や医療機器メーカー約40社のネットワークを利用して、廃棄された316Lステンレス・スチールを回収し、再

生に着手した。社名のパナテールは方言で、農民たちが果物などを収穫するときを使う枝を編み込んだ籠を意味し、「回収」が共通項だ。

再生の工程は破棄された316Lステンレス・スチールをグレード4441に仕分けをし、再生するグレード4441をひとつの容器にまとめることから始まる。そして将来的に追跡可能とするために、容器を密封する前にスペクトロメーターを当てて内容をスキャンした後に鑄造所に運び、再生工程に入る。パナテールでは化学薬品や鉱物類を加えずに高品質のリサイクル・スチールの製法を開発したという。

同社では現在、太陽熱発電を利用した溶鉱炉での製造を実験的に行い、今年9月にはスイス国内で本格的な稼働を開始する予定だ。リサイクル・スチールの製造工程での二酸化炭素排出は通常のスチール製造の10倍削減でき、さらに太陽熱発電を使うと165倍削減できるといふ。チタニウムの再生にも着手し、今年から本格的な製造が開始される。

伝統や固定概念を打破した「循環型スイス製ウォッチ」の誕生



友人関係にあったというID ジュネーブの創業者たち。左からデザインを担当するシグナル・デベリー氏(39歳)、CEO兼コミュニケーションとデジタル戦略担当のニコラス・フルーディガー氏(33歳)、時計師で製造責任者のセドリック・マルハウザー氏(32歳)。フルーディガー氏とデベリー氏がまずプロジェクトに着手し、クラウドファンディング直前にマルハウザー氏がフルタイムでID ジュネーブに加わった。

2021年にパネライは98.6%リサイクル・ベースの素材を使ったコンセプト・ウォッチを発表するとともに、協力したIIのサプライヤーの名も公表し、時計業界に「循環」という問題を投げかけた。しかしこれより早く、2020年に「循環型スイス製」を謳った時計ブランドの「ID ジュネーブ」が誕生した。共同創業者のひとりであり、CEOのフルーディガー氏はローザンヌのホテル学校を卒業後、コカ・コーラ・スイスでデジタルとEコマースのマネージャーを務めていた。同氏とは幼なじみのマルハウザー氏はジュネーブ時計学校を卒業した時計師で、ふたりは子供のころから時計に興味をもち、「社会にインパクトを与えるような時計ブランドを作ること」が夢だったという。デザイナーのデベリー氏はローザンヌのアート学校を卒業し、フリーランスとしてスイスの大手時計ブランドの時計デザインに携わっていた。

IDはアイデンティティ (Identity) を意味する。「ラグジュアリー・グッズの消費態度を変える新たなアイデンティティとなる、という思いを込めた」という。彼らは創業にあたって2019年にサプライヤーを探すためにスイス国内を回った。その構想の意外さに目を丸くする人も多かったというが、最終的に95%リサイクルの「サーキュラー」が完成。彼らは2020年12月にクラウドファンディングで300個を販売し、資金を調達した。「サーキュラー」は「長く愛される」

を前提に誕生から50年を経ても人気が高い時計に着想を得て八角形のケースがデザインされた。ケースは後出のパナテール社が再生した再生ステンレス・スチールを採用し、同社で製造される。ムーブメントは小規模のブランドからETA2824-2を搭載し、5年以上在庫として残っていた時計を提供してもらい、ジュラ地方の時計師たちが分解してムーブメントを取り出し、再調整を行う。分解後のケースや針、文字盤はスイス国内の専門工場で粉砕し、再生するという。完成品の組立はマルハウザー氏が担当。ストラップにはワイン醸造後のブドウの残留物を原料に植物性繊維を製造するイタリアのヴェギア社製を採用。またボックス

はキノコの菌糸体に麦藁やコルクなどの農業廃棄物を混合した原料から梱包材を作るイギリスのマジカル・マッシュルーム社製が使われる。2021年には約300個を製造し、今年末には1000個を目標とする。また日本やフランスへの進出も計画だ。「今年は少し小ぶりなユニセックス・モデルを発売する予定です。現行モデルではスーパールミノヴァはリサイクルではありませんが、パネライがコンセプト・モデルで採用したトライテック社のリサイクル・スーパールミノヴァに切り替えていきます。またサファイア・クリスタルも現在は70%リサイクルですが、より再生率の高いものにし、文字盤と針もアップサイクルした亜鉛製に替えます。ストラップは新たにロンドンのバイオフィリカ社の協力を得て、革に替わる堆肥化できるものを採用します」と、彼らの意気込みは強い。リサイクルは時計業界に根付くのだろうか。フルーディガー氏は「私たちはスイスの時計業界に一石を投じました。リサイクル・スチールがやがて業界の中で普通になるでしょう」と語る。